

令和4年度第1回北海道立旭川美術館協議会 議事録

★旭川美術館協議会は、学識経験者、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、公募の委員で構成され、毎年度2回（通常は7月と2月）開催されます。美術館の活動について、館長に意見を述べることができる諮問機関です。委員の過半数の出席で成立します。

- 1 日 時 令和4年7月27日（水） 14:00～16:00
- 2 会 場 北海道立旭川美術館講堂
- 3 出席者数 協議会委員12名中11名出席 美術館職員7名（館長および正規職員）
- 4 出席委員 石前聖香、伊東義晃（会長）、大石朋生（副会長）、草野孝治、坂井寿香、千葉幸恵、津辻としえ、橋場麻智子、彦野優佳、本間公浩、村中一徳
＜敬称略50音順＞
- 5 議 事 (1) 令和3年度（2021年度）事業実施状況について
(2) 令和3年度（2021年度）道立美術館評価について
(3) 令和4年度（2022年度）事業運営計画について

◎議事録（抄）

議事に入る前に委員紹介、館長挨拶を行い、その後、第1展示室及び第2展示室で「旭川の美術100年 第一部、第二部」展を観覧。

観覧後、会長の議事進行により、上記の議事について各委員に諮った。

＜議事についての意見等＞

* 事務局より令和3年度の展覧会等の実施状況（美術館評価結果を含む）、令和4年度の事業予定等を説明（展覧会、教育普及活動については映像でも紹介）。事務局からの報告、説明に対して、美術館の役割に期待することや、今後このような取組をして欲しいというようなことについて、協議委員を通して意見や感想等を頂く。

- 開催している展覧会の内容が外観からもはっきりと確認できると、入館前からの期待感が増すので、もう少し何か工夫があれば、来館が楽しみになるのではないかと。

【事務局回答】⇒ 予算もあるが、検討していきたい。

- コロナ禍という事で、入場者数に結び付きが薄く歯痒い思いもあると思うが、内容を充実した物を考えていけば、コロナさえなければ入場者数は間違いなく増えると思うので、頑張りたい。

- 「歌川広重」展のような和のテイストのものを見た際に、子どもが、流行っている漫画の世界っぽいと喜んでいました。自由研究を作成する際にも和の物を作成しており、こういう物に触れてはやりが作られていくのかと面白かった。

- 令和3年度は19点の作品が寄贈されたとの説明であった。作品の収蔵が予算の都合で厳しいという説明もあったが、予算不足のため寄贈をいただいたのか、寄贈者からの希望で寄贈をいただいたのか、寄贈を受けるのに要件があるのか、寄贈をいただいた方への謝意について定めがあるのかについて参考に聞きたい。

【事務局回答】⇒ 購入予算はゼロではなく、全道の道立美術館で調整し、作品を購入している。寄贈に関しては、近年はコレクターの方の代替わりが進んでおり、作家のご遺族などが作品を手放すことが増えている。昨年度寄贈いただいた作品は旭川ゆかりで、寄贈者は作家の関係者やご遺族ばかりである。明らかに売り絵や、当館の収蔵方針（道北や木）に合致しない作品は受入が難しい。寄贈者には館長からの感謝状をお渡ししており、知事からの感謝状をお渡しする場合があります。

- 旭川美術館は、もっと発信をして欲しい。ツイートも、返信をしないと、ただのお知らせですというのは寂しい。
- コロナ禍での学校教育活動は制限が多く、美術館評価の「学校との連携状況」の評価が低いのを残念に思う。コロナも3年目になってきて、美術館側も、学校側も、子ども達自身もかなり感染対策については自主的に出来るようになってきているので、双方の力を合わせれば、安心安全な環境の中で、子ども達に体験的で豊かな学びの場を提供出来るのではないかと考えている。
- 40周年は式典などは行わないとの事だが、昨年報告より、今年は250万人に達する可能性もあるのかと思う。そう言った事もPRしながら、より美術館に来てもらえるよう考えていただければと思う。
- コロナ禍3年目で今年も様々な制限があると思うが、今回の協議会のキーワードである、メモリアルイヤー、ワクワク感、SNS等の発信力を大切にしながら企画運営をし、入場者が益々多くなることを期待する。